

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

2022/12/16

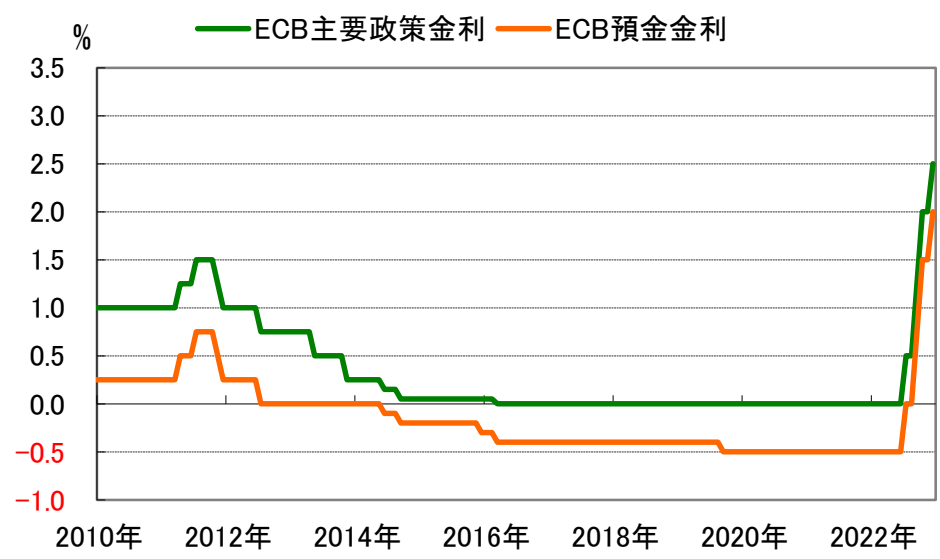
りそなホールディングス 市場企画部

○概況

- ◆ ECB理事会は4会合連続で利上げを実施も、利上げ幅は0.50%に縮小
- ◆ 保有資産の削減について、2023年3月以降の実施を決定、6月末までは毎月150億ユーロのペースで削減
- ◆ ラガルド総裁のトーンは明確にタカ派で記者会見中にEURが上昇

- ✓ 12月15日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では4会合連続での利上げを決定し、預金ファシリティ金利を2.00%、主要政策金利を2.50%、中銀貸出金利を2.75%へそれぞれ引き上げた。利上げ幅は前回まで2会合連続で続いた0.75%から0.50%に縮小させた一方、インフレ率を2%に戻すため、金利は依然として安定したペースで大幅に上昇する必要がある、とした。
- ✓ ラガルド総裁は記者会見で市場が見込むよりも金利を引き上げるべきとの考えを示し、0.50%ペースでの利上げを一定期間（2月、おそらく3月も）継続すると述べた。また、今回の決定について、全会一致ではなかった旨を明かした。
- ✓ 前回理事会で検討を示唆していた保有資産の削減について、2023年3月以降の実施を決定。慎重かつ予測可能なペースで実施するものとし、6月末までは毎月150億ユーロのペースで削減する。その後の縮小ペースは時間をかけて決定するものとした。
- ✓ 経済スタッフによる経済見通しを更新し、インフレ見通しを大幅に上方修正した。ユーロ圏経済は10-12月期および1-3月期にマイナス成長に陥る可能性を指摘したものの、景気後退は比較的短期間で浅いものになるとの見通しを示した。ラガルド総裁は記者会見で、成長に対するリスクは下振れ方向、インフレに対するリスクは上振れ方向と述べた。
- ✓ 今回は利上げペースの減速を決定したが、ラガルド総裁のトーンは明確にタカ派的であり、記者会見中に欧州金利が上昇し、EUR高が進行した。記者会見での発言通り3月まで0.50%利上げを継続すれば預金ファシリティ金利は3.0%となり、発表時点の市場織り込みを上回る水準となる。ユーロ圏は10%を超える高インフレと景気後退懸念に挟まれて難しい政策判断を迫られる。今回の決定も3分の1が0.75%利上げを主張との報道があるなど全会一致ではなかったことが示唆されており、今後の政策不確実性を残す内容となった。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（12月時点）】

	2022年	2023年	2024年	2025年
実質GDP成長率	+3.4	+0.5	+1.9	+1.8
9月時点の見通し	+3.1	+0.9	+1.9	-
HICP(消費者物価)	+8.4	+6.3	+3.4	+2.3
9月時点の見通し	+8.1	+5.5	+2.3	-

前年比、%
【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。